

## サービ斯拉ーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 門脇 麻衣

活動先：親子の広場 あんだんて

ゼミ：野尻 紀恵 先生

### 1. サービ斯拉ーニングを通しての自分の成長と気づき

私はサービ斯拉ーニングの活動に参加し、そこで学童に携わりたいと思いこの野尻ゼミに入った。バスツアーで活動先となるあんだんてを見学させてもらい、活動内容や活動理念を聞き共感し、あんだんてのような施設が近くにあったらいいと思い活動を希望した。

あんだんてでの活動は、子どもが来て宿題をし、午前か午後のどちらかに学生企画を行うという流れだった。自分は企画を考えるのが苦手だったので、活動グループでの企画作りが円滑に行えるかどうか不安だった。いざ活動してみて、気づいたことは三つある。

一つ目は、言葉遣いだけではなく伝え方も注意する必要があるということ。活動中、子どもたちと話すときは、きれいな言葉を使い、難しい言葉で話さないように気を付けた。しかし、言葉遣いは意識していても、普段抽象的な話し方をしてしまうことがあるので、「あれじゃわかんない」と言われたことが印象に残った。そう言われて私は考えさせられた。きれいな言葉で話すことも大切だが、子どもは察することがまだできないので、なぜそうするのか、理由を具体的に説明するということが子どもと話す上で必要だと思った。

二つ目は、子どもたちは自分たちで楽しみ方を見つけられるということ。子どもの親族からスイカの差し入れがあり急遽スイカ割りをするようになった。はじめ子どもたちの反応は「児童館の行事でやった」、「普通に食べたい」と言って批判的な態度だった。しかし、実際にやってみると、割る順番の列に一気に並び始めた。一人一回しか割れないというルールで行っていたのに、「次は絶対割る」と言ってまた並び始めた子たちが何人もいた。

またシャボン玉遊びは、シャボン液を水のりや精製水を使い自分たちで作るところから始まった。誰もが経験したことのある遊びなので楽しんでくれるか不安だった。一人で黙々と遊んでいる子もいれば、誰が一番大きなシャボン玉を作れるかを競っていた子どもたちもいた。周りと一緒に楽しむ子どもや一人で遊ぶ子どもがいて、子どもたちは自分に合った遊び方を見つけられるということがわかった。

三つ目は、みんなと一緒に遊ぶことも大切だが、一人で遊んでいる子どものことを見守ることも大切だということである。活動前の企画を練る段階では、みんな楽しく企画を行うことを前提に考えていた。しかし活動を行っているうちに気付いた。それは大勢の中に入っていけない子どもへの配慮ができていないということであった。そのような子どもを無理に輪の中に入れるのではなく、一人で遊んでいる子どもを見守ることや、たまに声をかけて様子を見るということも大切だということに気付いた。

また、将棋の相手をしているとその子どもに対して真剣になってしまい、周りが見られ

なくなってしまったことがあった。そのことに対して職員さんからは「一人の子に本気で向き合えないと、全員とも本気で向き合えない」と言っていた。そのときに私は今まで自分たちが考えてきた企画は、輪の中に入っていけない子どもたちや一人で遊んでいるのが楽しいという子どもたちへの配慮ができていなかったと感じた。

6日間の活動を通してやり終えた達成感だけでなく、自分の成長にもつながったと思う。

企画の進行においては、周りを見ながら行動すること、何をすべきかを判断することの難しさを改めて感じた。何度も企画の話し合いをしても小学生が相手だと予定通りにいかないことがある。早めに片付けを指示ができたこと、予定通りにいかないことを想定して行動できたことは活動で身に付いたことだと感じた。企画進行中、どうすればいいかわからなくなり、子どもたちに指示を出すのが遅れることがあった。そのときに他のメンバーに助けをもらったり、自分が助けたりし、力を合わせることの重要性を学んだ。

職員さんのリクエストで自分の出身地について話す時間をいただいたことがあった。何をどんな風に話せば小学生に理解してもらえるか考えながら話した。自分が小学生だった時の話をした。人前で話す機会は何度かあったが、理解してもらえるように話すということの難しさ、興味を持ってくれそうな話題についてどう話すかを聞き手の立場に立って考えながら話すことができたと思う。人に伝える時に重要なことを学び、成長できた。

活動後の研究・考察により、活動の学びを深められた。ただ活動することだけがサービスマスラーニングではない。活動を通して地域の課題を見つけ、その課題について考える。1年間のサービスマスラーニングは自分にとって貴重な経験であり、成長を促してくれた。

## 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

活動中、施設内には多くのボランティアの方たちが作ったおもちゃがあった。また、私たちの活動中にも親の協力やボランティアの方たちに来ていただき、助けられた。このように、あんだんては職員さんだけの子育て支援ではなく、側面からのサポートとして地域の方も一緒に子育て支援をしている。その背景はあんだんての活動理念にあった。あんだんての活動理念は「地域の人に見守られながらゆっくり子育てをする」、「もう一つの家のような存在」である。この理念を持って地域に根差した活動をしているので、地域の方も共感し、気持ちで動いてくれる。またボランティアの方が多いのは、自己満足に留まらずボランティアの方同士での交流にも繋がっており、居場所にもなっているからである。

子育て支援だけではなく交流の場として活動し行事をしている。その際に近くに住む高齢者にも声をかけて様々な年代の人たちが交流のできる場も提供している。よって自分たち学生も活動を通して地域交流という貢献にもつながると思った。

あんだんてのような子育て支援施設は必要としている人がもっと多いと思う。中には家庭に福祉課題を抱えている子どもたちが何人かいた。その相談を受けるのもあんだんての役割の一つである。子育て支援が親子支援に繋がり、家族支援に繋がる。家庭に福祉課題を持った利用者の相談に乗ることによって、当事者たちだけでは解決できないような課題点も解決・改善に向かうことができると感じた。